

1.1 概要

概要

「2015年ミラノ国際博覧会」(略称「ミラノ万博」)は、2015年5月1日から10月31日までの184日間、イタリア・ミラノにおいて開催された。ミラノでの万博開催は1906年に続き2回目、約100年ぶりであった。

「食」をテーマとした史上初の万博で、110ヘクタールの広大な敷地に145カ国・地域と3国際機関が出展。イタリア国内外より約2,150万人が来場し、成功裡にその幕を閉じた。

- 名称: 「2015年ミラノ国際博覧会」(略称「ミラノ万博」)
(EXPO Milano 2015)
- 種別: 国際博覧会条約に基づく「登録博覧会」
- テーマ: 「地球に食料を、生命にエネルギーを」
(Feeding the Planet, Energy for Life)
- 会場: ロンバルディア州ミラノ県ペーロ市・ロー市
- 会期: 2015年5月1日～10月31日(184日間)
- 開催時間:
[5/1～]10:00～23:00(夜間入場 19:00～23:00)
[8/29～]9:00～23:00(夜間入場 18:00～23:00)
※8/29以降の9時開場は東・南ゲートのみ。西ゲートは10時開場。
※5/30以降、土曜・日曜は深夜24時まで開場。
- 会場面積: 110ヘクタール
- 入場者数: 約2,150万人(目標2,000万人)
- 参加国等: 145カ国・地域、3国際機関
- 主催者組織: Expo 2015 S.p.A.
※本記録では「ミラノ万博公社」と称する

テーマ

「地球に食料を、生命にエネルギーを」
(Feeding the Planet, Energy for Life)

テーマとともに「世界中の人々に、十分に安全で、健康的、適切な食料を持続的に保障することは可能か?」という地球規模の課題が掲げられ、参加国は出展を通じてその解決策や貢献策を示すことが求められた。

サブテーマ

1. 「食料の安全、保全、品質のための科学技術」
(Science and technology for food safety, security and quality)
2. 「農業と生物多様性のための科学技術」
(Science and technology for agriculture and biodiversity)
3. 「農業食料サプライチェーンの革新」
(Innovation in the agro-food supply chain)

4. 「食育」
(Dietary education)
5. 「より良い生活様式のための食」
(Food for better lifestyles)
6. 「食と文化」
(Food and culture)
7. 「食の協力と開発」
(Cooperation and development on food)

ロゴマーク



「EXPO」と「2015」の4つの文字と数字を、黄色・青・マゼンタの3原色が重なるように表現されている。イタリア人デザイナー、アンドレア・ブッパ氏の作品で、応募作品710点の中から採用された。

マスコット



ミラノ万博のマスコット「フーディ(Foody)」は、11の個性豊かな果物や野菜(リンゴ、ザクロ、洋ナシ、オレンジ、スイカ、青トウモロコシ、ハツカダイコン、マンゴー、イチジク、バナナ、ニンニク)が集まったキャラクターで、ディズニー・イタリアにより制作された。果物や野菜を寄せ集めて描くという、16世紀のミラノ出身の画家アルチンボルドの手法をもとにデザインされ、名前は「Food(食)」「Community(コミュニティ)」「Diversity(多様性)」に由来している。

入場パス

万博スタッフの入場パス(Accreditation Card)は以下の3種類が使用された。オンライン上の認証システムを通じて申請・登録が行われ、パスの保有者は万博会場各ゲートの専用レーンより入場が可能であった。

- パーマネント・パス:
万博会期中、定期的に入場するスタッフのためのパス。顔写真、氏名、役割、所属団体、入場コードが表示されている。
- テンポラリー・パス:
臨時スタッフ、代表団の訪問時など、通期のアクセスを必要としないスタッフのためのパス。有効期限は1～30日間で任意に申請が可能。
- フローター(無記名入場パス):
無記名で、会期中繰り返し使用可能なパス。万博会場内に直ちに入場しなければならない緊急事態等のため、各パビリオンに限られた枚数が配布された。



万博会場内の各施設のうち、エキスポオフィス、メディアセンター、放送センター、オープン・エア・シアター、カンファレンスセンター/オーデトリウムなど12のエリアは入場が制限され、必要な権限(入場コード)を持つパス保有者のみ立ち入りが認められた。また、上記のスタッフパスのほか、VIP、プレス・メディアのため各専用入場パスが発行された。

入場券

種類	Open Date	Fixed Date	
1日	大人(14歳以上)	39ユーロ	34ユーロ
	学生(14～25歳)	33ユーロ	29ユーロ
	シニア(65歳以上)	28ユーロ	24ユーロ
	障がい者	20ユーロ	17ユーロ
	障がい者(+付添者(無料)1名)	20ユーロ	17ユーロ
	子供(4～13歳)(セット販売のみ)	16ユーロ	16ユーロ
	ファミリーA(大人1人+子供1人)	49.50ユーロ	43ユーロ
	ファミリーB(大人2人+子供1人)	84.50ユーロ	73ユーロ
	ファミリーC(大人1人+子供2人)	64ユーロ	56ユーロ
	ファミリーD(大人2人+子供2人)	99ユーロ	86ユーロ
追加の子供(ファミリーパッケージ)	10ユーロ	10ユーロ	
2日(連続)	大人	67ユーロ	57ユーロ
	学生(14～25歳)	58ユーロ	49ユーロ
	シニア(65歳以上)	48ユーロ	42ユーロ
	子供(4～13歳)	28ユーロ	28ユーロ
	障がい者+付添者(無料)	36ユーロ	31ユーロ
	ファミリーA(大人1人+子供1人)	91ユーロ	77ユーロ
	ファミリーB(大人2人+子供1人)	154ユーロ	130ユーロ
	ファミリーC(大人1人+子供2人)	119ユーロ	101ユーロ
	ファミリーD(大人2人+子供2人)	182ユーロ	154ユーロ
	追加の子供(ファミリーパッケージ)	10ユーロ	10ユーロ

種類	Open Date	
2日バス	大人(14歳以上)	72ユーロ
	シニア(65歳以上)	51ユーロ
	障がい者+付添者(無料)	38ユーロ
	子供(4～13歳)(セット販売)	30ユーロ
3日バス	大人(14歳以上)	105ユーロ
	シニア(65歳以上)	76ユーロ
	障がい者+付添者(無料)	55ユーロ
シーズンバス	大人(14歳以上)	115ユーロ
	シニア(65歳以上)/学生(14～25歳)	89ユーロ
	子供(4～13歳)/障がい者+付添者(無料)	57ユーロ

種類	Open Date
夜間チケット	5ユーロ

- ※オープンデイト(Open Date)
チケット購入時に入場希望日を選択しないタイプのチケット。購入後、入場希望日以前までに専用サイトで入場日を設定する。設定していないチケットでも、会場の混雑状況等に応じて入場に利用できる。
- ※フィクストデイト(Fixed Date)
チケット購入時に希望の入場日を選択・指定するタイプのチケット。
- ※2日・3日バス
連続しない日程で利用可能。
- ※シーズンバス
万博会期中、何度でも入場可能なチケット。所有者の名前と写真入りのパス。
- ※夜間チケット
夜19時より(8/29からは18時より)万博会場開場まで利用可能なチケット。
- ※学生、障がい者、団体向けの割引料金あり。

1.2 万博会場と主要施設



■パビリオン(148カ国・地域・国際機関が参加)

公式参加者								
自己建築型パビリオン								
1 チェコ	2 バーレーン	3 アンゴラ	4 ブラジル	5 韓国	6 モルドバ			
7 リトアニア	8 ベラルーシ	9 マレーシア	10 タイ	11 ウルグアイ	12 中国			
13 コロンビア	14 アルゼンチン	15 ポーランド	16 オランダ	17 パチカン	18 フランス			
19 イスラエル	20 スイス	21 エクアドル	22 ドイツ	23 クウェート	24 米国			
25 トルコ	26 モナコ	27 日本	28 スロバキア	29 ロシア	30 エストニア			
31 オマーン	32 インドネシア	33 トルクメニスタン	34 カタール	35 モロッコ	36 イラン			
37 チリ	38 オーストリア	39 スロベニア	40 メキシコ	41 ルーマニア	42 スペイン			
43 ハンガリー	44 英国	45 カザフスタン	46 アラブ首長国連邦(UAE)	47 アゼルバイジャン	48 ベトナム			
49 ベルギー	50 スーダン	51 ネパール	52 アイルランド					
国際機関								
国際連合 (UN)		欧州連合 (EU)		カリブ共同体 (CARICOM)				
クラスター型パビリオン								
☉ コメ	☉ カカオ	☉ コーヒー	☉ 果実と豆類	☉ スライス	☉ 穀物とイモ類	☉ 地中海の食	☉ 島・海・食	☉ 乾燥地帯
カンボジア	ガーナ	イエメン	ウズベキスタン	アフガニスタン	コンゴ共和国	アルジェリア	カリブ共同体(CARICOM)	エリトリア
シエラレオネ	ガボン	ウガンダ	ガンビア	タンザニア	ジンバブエ	アルバニア	北朝鮮	ジブチ
バングラデシュ	カメルーン	エチオピア	ギニア	バヌアツ	トーゴ	エジプト	ギニアビサウ	セネガル
ミャンマー	キューバ	エルサルバドル	キルギス	ブルネイ	ハイチ	ギリシャ	グレナダ	★ ソマリア
ラオス	コートジボワール	グアテマラ	コンゴ民主共和国	ベネズエラ	サンマリノ	コモロ	バレスチナ	
	サントメ・プリンシペ	ケニア	ザンビア	ボリビア	セルビア	モザンビーク	マリ	
		ドミニカ共和国	スリランカ	モザンビーク	チュニジア	セントルシア	★ モーリタニア	
		東ティモール	赤道ギニア		マルタ共和国	ドミニカ国	★ ヨルダン	
		ブルンジ	ペナン		モンテネグロ	マダガスカル	リベリア	
		ルワンダ			レバノン	モルディブ		

★:カリブ共同体(CARICOM)館に出席



非公式参加者
市民社会団体/パビリオン
Actionaid Alliance2015 / Cesvi Caritas Famiglia Salesiana DBN / VIS Fairtrade International Fondazione Triulza Lions Clubs International Oxfam Save the Children WWF WAA-AMIA / CONAF ESO / ONDA Kip International School Veneranda Fabbrica Del Duomo Di Milano Amity University / Global Foundations Andrea Bocelli Foundation World Expo Museum Erasmus Student Network
企業パビリオン
New Holland Agriculture China Corporate United Pavilion Vanke JooMoo CIBUS&ITALIA Coca-Cola
主要施設
テーマエリア
パビリオン・ゼロ レイクアリーナ「生命の樹」 地中海の丘 カッシーナ・トリウルツァ～市民社会団体パビリオン～ 子どもパーク 生物多様性パーク
イベントエリア
オープン・エア・シアター オーディトリウム カンファレンスセンター エキスポ・センター

アクセス

万博会場は、ロンバルディア州ミラノ県ペーロ市、ロー市にまたがるエリアに建設された。ミラノ中心部から地下鉄で約30分の場所に位置し、毎年ミラノサローネ国際家具見本市等が開催される見本市会場「フィエラミラノ」に隣接している。

■ミラノ市内から

地下鉄

地下鉄1号線で、ミラノ市内各駅より万博会場最寄りのロー・フィエラミラノ万博駅まで直通。(ドゥオーモ駅から約25分、ミラノ中央駅から約35分)

鉄道(郊外・地方線)

ミラノ中央駅等より、万博会場最寄りのロー・フィエラミラノ万博駅まで直通。(ミラノ中央駅から約15分)

■空港から

万博会場はミラノ・マルペンサ空港、ミラノ・リナーテ空港からほぼ等距離に位置している。ミラノ・マルペンサ空港から、バスまたはタクシーで約30分。

■その他都市から

鉄道(国内・国際線)
万博会場中は、高速鉄道フレッチャロッサが走るイタリア国鉄等を含むイタリア国内外からの各路線がロー・フィエラミラノ万博駅で停車。

自動車

A4高速道路等が万博会場に接続。

会場全体

ミラノ万博会場の特徴の一つが、古代ローマから着想を得て配置された東西南北を十字に交わる2本の大通りである。北のパラッツォ・イタリアから、南のオープン・エア・シアターまでをつなぐ350メートルの南北の大通りは「カルド(Cardo)」と呼ばれ、開催国イタリアのパビリオン群が並んだ。西のエクスボ・センターから東の「地中海の丘」に向かって東西に約1.5キロメートル伸びる大通りは「デクマノ(Decumano)」と呼ばれ、日本館をはじめとするすべての参加国のパビリオンが配置された。会場の周囲が運河に囲まれているため、万博会場が大きな「島」となり、独特の景観をつくり出した。

■入場ゲート

万博会場には4つの入場ゲートが設けられた。メインゲートである2つの西ゲート「フィエラミラノ」「トリウルツァ」は鉄道・地下鉄駅に、東ゲート「ロゼリオ」は大型バス・タクシー駐車エリアに、南ゲート「メルラータ」は一般車両駐車エリアに接続している。このほか、VIP車両のための専用入場口がエキスポ・センター横に設置された。各ゲートでは、テロ等の対策のため空港レベルのセキュリティチェックが行われた。

■シャトルバス

デクマノ、カルド等への車両の乗り入れは不可であったため、万博会場内の移動にあたっては外周道路を時計回りに巡回する無料シャトルバス(People Mover Shuttle Bus)が利用された。外周道路に10の停留所が設置され、5~7分毎に運行した。

主要パビリオン・施設

1. 開催国館(イタリア館)

万博会場を南北に延びる大通り「カルド」の北端に位置する「パラッツォ・イタリア(Palazzo Italia)」と、カルド沿いに並んだイタリア各州や特産物をテーマとするパビリオン群を総称してイタリア館(Italian Pavilion)と呼んだ。

パラッツォ・イタリア

万博会場内のパビリオンで最大面積を誇った「パラッツォ・イタリア」は、隣接する「生命の樹」とともにミラノ万博のシンボルとして親しまれた。「イタリアの苗床(Nursery Garden of Italy)」をテーマに、イタリア各地の美しい風景を全面鏡張りの壁面に投射したゾーンや、食に対する新しい取組を紹介したゾーンなど多彩な展示が展開されたほか、ミラノ憲章(資料編p53参照)のコーナーが設けられVIPを含む多くの来館者が署名した。



自治体等出展エリア

カルド沿いには、ロンバルディア州をはじめとする地方自治体のほか、コーヒーや乳製品などのイタリア企業によるパビリオンが並んだ。「ワイン・パビリオン」ではイタリア全土から集められた1,000を超す種類のワインが展示され、ソムリエの案内によるテイasting(有料)が人気を集めた。

2. 外国館

万博会場を東西約1.5キロメートルに貫く大通り「デクマーノ」沿いに、各国の趣向を凝らした52の自己建築型パビリオンが並んだ。各パビリオンには展示のほかレストランやショップ、イベントスペースなども設けられ、独自のテーマに基づき、食に関する各国の伝統・文化や様々な取組が紹介された。

※BIE褒賞において2,000平方メートル超の自己建築型パビリオンのカテゴリーで金賞を受賞した日本館以外の2館(ドイツ、フランス)および直近の万博開催国の4館(UAE、カザフスタン、韓国、中国)を五十音順で掲載。

アラブ首長国連邦(UAE)館

パビリオン全体が砂漠・砂丘をイメージして作られており、壁の材料にも砂が使用された。視界最大170度のスクリーンからなるメインショーでは、現代から過去にタイムスリップした少女が砂漠での生活の過酷さを知り、水や食料の大切さを学んでいくストーリーが上映された。パビリオン内には2020年ドバイ万博を紹介する展示も設置された。



カザフスタン館

2017年アスタナ万博の開催国であるカザフスタン館では、同国の過去から未来を迎える旅をテーマに、砂絵のアートの実演のほか、世界の食料安全保障への貢献策を紹介したマルチメディア展示、3Dシアターのメインショーなどが展開された。パビリオン正面のステージでは連日伝統音楽などのパフォーマンスが披露された。



韓国館

伝統的な発酵食品や野菜を中心とする「韓食(Hansik)」を取り上げ、食が私たちの身体を形作るだけでなく、アイデンティティーを表し得るものであることを示した。パビリオン全体が韓国伝統の陶器をイメージしており、2階には展示スペースが、1階にはレストランやショップが設置された。



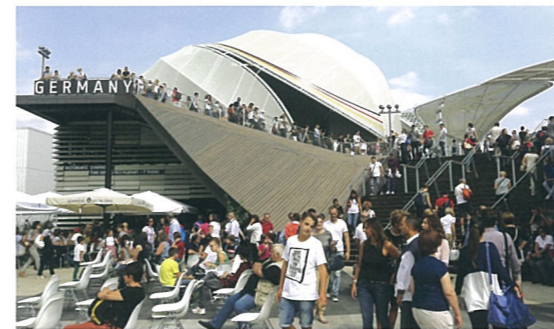
中国館

「希望の地、命のための食(Land of Hope, Food for Life)」をテーマに、中国の農耕文明、農業における技術革新、食文化を紹介。敷地面積は外国館中2番目で、パビリオンには中国の伝統的な建築構造が用いられ、独特の外観を持つ屋根が波打つトウモロコシ畑を表現した。



ドイツ館

外国館の中で最大の敷地面積で出展したドイツ館では、「アイデアの畑(Fields of Ideas)」をテーマに、水や土壌、気候、生物多様性に焦点を当てた展示を展開。来館者にはシードボード(Seed Board)と呼ばれるセンサー機能付きのボール紙が配られ、水の浄化や農業のサイクル、野菜の品種改良などテーマ別の解説映像をボール紙に映して観覧することができた。



フランス館

世界の食料生産への貢献、新たなモデルの発展、途上国の自給自足の改善、健康・栄養・料理における質と量の調和の4点をコンセプトに、フランスにおける農業や食の取組を展示。パビリオンへ通じる屋外通路では、フランス各地の野菜や果物が植えられた。



3. クラスター

共通するテーマのもと、独立パビリオンを持たない複数の国や機関、企業などが共同出展するためのスペース。「コメ」、「カカオ」、「コーヒー」など農産物をテーマとするグループと、「地中海」、「島・海」、「乾燥地帯」など地域の特徴に焦点を当てたグループとがあった。農産物などの分類による参加モデルは万博としては初めての試みで、各テーマに応じ、参加国が農業や食に関する独自の文化や歴史を紹介した。



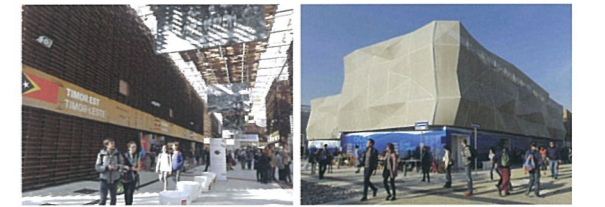
① コメ～豊穰と安心～
Rice - Abundance and Security

② 穀物とイモ類
～旧来の作物と新しい作物～
Cereals and Tubers: Old and New Crops



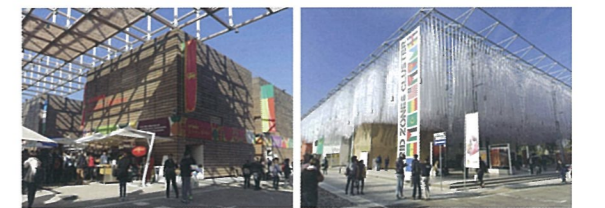
③ カカオとチョコレート
～神の食料～
Cocoa and Chocolate: The Food of Gods

④ 地中海の食～健康・美しさ・調和～
Bio-Mediterranean:
Health, Beauty and Harmony



⑤ コーヒー～アイデアの原動力～
Coffee: The Engine of Ideas

⑥ 島・海・食
Islands, Sea and Food



⑦ 果実と豆類
Fruits and Legumes

⑧ 乾燥地帯における農業と栄養
Agriculture and Nutrition
in the Arid Zones



⑨ スパイス～スパイスの世界～
Spices: The World of Spices

第1章 ミラノ 国際博覧会 の概要

第2章 日本館の 概要

第3章 日本館の 建築

第4章 日本館の 展示

第5章 日本館の 運営

第6章 日本館の 広報

第7章 日本館の 行権事

第8章 日本館の イベント広場

第9章 日本館の レストラン

第10章 日本館の 成果

4. テーマエリア

パビリオン・ゼロ

メインゲート正面に立つミラノ万博のテーマ館。巨大な映像や模型による展示で人類の食をめぐる歴史を表現し、来場者がミラノ万博のテーマ「地球に食料を、生命にエネルギーを」を考える導入部となっている。

入口を入ると、天井まで壁一面に木製の引き出しが並べられた「世界の記憶」と呼ばれる巨大な書斎棚がそびえ立ち、棚を通り抜けると裏側が一つの巨大なスクリーンとなっている仕掛けが来館者の注目を集めた。人類の食料生産・消費の歴史を辿りながらゾーンは続き、農業・漁業の技術のほか、食料保存の知恵、生物多様性、農村風景から都市への変化、現代における食品廃棄(フードロス)などの問題が印象的な展示とともに分かりやすく紹介された。

また最後のゾーンでは、一般募集により選定された、世界各地の食料安全保障に関する持続的開発に向けた取組の優良事例(ベストプラクティス)が展示された。



レイクアリーナ、生命の樹

カルドの北端、イタリア館横に位置する屋外スペース。直径90mの円形の噴水を囲むように3,000人が着席可能なステップが設置されており、来場者の憩いの場として活用された。レイクアリーナには、ミケランジェロ設計によるローマのカンピドリオ広場から着想を得てデザインされた、高さ37mの「生命の樹(Tree of Life)」がそびえ立ち、連日迫力ある噴水と光の演出によるショーが行われた。



地中海の丘

デクマーノの東端に位置する高台で、地中海の生態系を代表する植物で覆われており、頂上からは万博会場を見晴らすことができる。隣にはスローフード運動の展示スペースが設置された。



カッシーナ・トリウルツァ ～市民社会団体パビリオン～

ロンバルディアの伝統的な農場の建物で、「市民社会団体パビリオン」として使用された。万博閉幕後も、会場のランドマークとしての活用が予定されている。



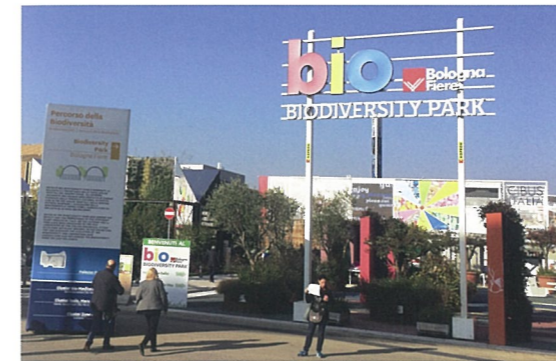
子どもパーク

8つのアトラクションを通して、人間と生き物(動物、植物)との結びつき、水やエネルギーの大切さ、持続可能性などを学べる子どものためのスペース。



生物多様性パーク

食や農業における生物多様性をテーマとしたエリア。屋外公園とガーデン、展示、オーデトリウム、有機農業パビリオン、ウェブ・ソーシャルネットワークの5つのセクションからなり、生物多様性に関する問題やその解決のための技術などを紹介した。



5. イベントエリア

オープン・エア・シアター

カルドの南端に位置する、最大1万2,000人収容(4,000席と8,000人分の立ち見スペース)の屋外シアター。開幕式や閉幕式などの大規模な催事会場として使用されたほか、5月から8月まではシルク・ドゥ・ソレイユによる「アッラヴィータ!(ALLAVITA!)」が上演された。



オーデトリウム/カンファレンスセンター

オーデトリウムは、万博会場中央南に位置する多目的施設で、参加国によるナショナルデー催事等で使用された。収容人数約1,000人(ステージ設置サイズによる)の大規模催事のための施設で、大型のコンサートやコンベンション等が開催された。

大部屋(収容人数:約260人)2室、中部屋(収容人数:約70人)3室からなるカンファレンスセンターでは、講演やワークショップ等の中小規模催事が開催された。



エキスポ・センター

デクマーノの西端に位置する屋内施設で、多目的の会議スペース等が設置された。建物の正面が半屋外のホールとなっており、各国ナショナルデーの公式式典等が行われた。

また、国内外メディアのための「メディアセンター」が設置され、登録したメディアには万博公社や各パビリオンからの最新情報や、各種通信設備などのサービスが提供された。このほかイタリア放送協会(RAI)のスタジオも設置された。



第1章 ミラノ 国際博覧会 の概要

第2章 日本館の 概要

第3章 日本館の 建築

第4章 日本館の 展示

第5章 日本館の 運営

第6章 日本館の 広報

第7章 日本館の 行事

第8章 日本館の イベント広場

第9章 日本館の レストラン

第10章 日本館の 成果